



福岡県立伝習館高等学校

自然科学部

絶滅危惧種ニホンウナギのサンクチュアリづくりを通した2つの地域創生

2014年から、ニホンウナギのサンクチュアリをつくるという取り組みを始めました。現在までのシラスウナギの特別採捕数は10,000尾を超え、水槽の水換えを行わずに7cm以上まで飼育した稚魚をこれまでに8,700尾以上を放流しています。また、一定の川の流量を確保するための植林活動やウナギを飼育している過程で感染症に罹って死亡させることを防ぐための実験も行っています。



大分県立大分工業高等学校

DAIKO風車プロジェクトチーム

DAIKO風車プロジェクト

校長の「今年は『SDGs』でいきます！」という言葉が始まりで、CO2削減につながる再生可能エネルギーを作ろうと考えました。地球温暖化の専門家などの話を聞きながら、自分たちにできることを模索した結果、風車の製作に至り、風車と太陽光の再生可能エネルギーを使って『SDGs』の看板を照らす計画にしました。無事に大看板の点灯式を迎えることができました。



大分県立大分東高等学校

農業部

地域と連携した景観保全活動

継続した連携活動と地域の景観を守るべく、花壇の作成や地域の方々に対し花育活動を行う。関係機関の施設見学や研究、小・中学校に出前授業を行い、環境保全に対する啓発活動を行う。活動結果を地方紙や民放テレビを通して、大分県民や市民に伝える。大分市環境部環境対策課のホームページに活動発表が紹介され、地域に必要とされている学校になると実感している。



大分県立日田高等学校

科学部生物班

二枚貝の移動先に適した環境の発見や調整

淡水生二枚貝(マツカサガイ・ササノハガイ)の保全を目標に研究活動を行っています。二枚貝は絶滅危惧種タナゴの産卵場所になっています。フィールドワークの結果、二枚貝の個体数が減少していることがわかりました。原因は河川工事で、工事前に二枚貝を保護し工事の影響を受けないような場所へ移動ができなかと考えています。移動先の環境条件を知るために実験を行っています。



大分県立日田高等学校

科学部物理班

風車の形と発電効率の関係

風力発電に注目して研究を行いました。風力発電には様々な種類があり、発電に最適な風車は何かを明らかにしようと風車の製作をすることから始めました。初めは風車がなかなか回らずに苦戦しましたが、風が風車にどのようにあっているかを調べ、回る風車を作ることに成功しました。羽の形や厚さなどに着目し、どの風車が最も効率よく発電できるかを考えました。



佐賀県立高志館高等学校

環境クラブ

佐賀平野は淡水魚の宝庫！～農業の多面的機能を探る～

佐賀平野の水路網は、絶滅危惧種や固有種の淡水魚の宝庫です。しかし、圃場整備などのため、その数を大きく減らしています。私たちは、魚が棲むにはどのような環境が必要なのかを理解し人々に伝える活動に取り組みました。学校玄関に水槽を設置し、捕獲した淡水魚を生態展示しています。農業の多面的機能をPRすることで農業の活性化につながることを期待しています。



佐賀県立唐津南高等学校

トウガラシプロジェクトチーム

佐賀の農家と環境を救え！～救荒作物の無農薬栽培への挑戦～

佐賀県は、タマネギが全国生産量第2位。しかし近年、県内ではタマネギのべと病による被害が多発し、重大な問題となっています。この課題を解決するため、主要な栽培品目が不作の場合でも農業経営が安定できるような救荒作物の栽培方法を確立させることができなかと活動を始めました。農業を守り環境も守るため、環境に優しい救荒作物の栽培方法の確立を目指しました。



熊本県立宇土高等学校

科学部地学班 不知火探検隊

知らない現象(不知火現象)を科学する

不知火は、1年の中で八朔(旧暦の八月一日)の晩に不知火海でしか見ることができないとされている怪火で、蟹気楼の一種です。4年間観測を行いました。4年間観測を行いましたが明瞭な不知火を見ることはできませんでした。そこで、不知火の観測状況や不知火海沿岸の環境変化の現状を多くの人に伝えたいと思い、研究内容を文化祭や学会など校外の活動に参加し積極的に発信することにしました。



長崎県立諫早農業高等学校

食品科学部

環境保全活動 ～持続可能な消費と生産について～

長崎県産ミニトマトの有効利用。地元農産物直売所と連携して、ミニトマト入りショートブレッドを開発・商品化しました。規格外ミニトマトを有効利用するため工夫・改善し商品化。販売会では多くの地元の方々やマスコミ関係者に諫早産ミニトマトをPRできました。活動を通して、農産物の規格外品や農業廃棄物を有効利用することの大切さを学ぶことができました。



長崎県立対馬高等学校

ユネスコスクール部

地域と連携した「国境の島・対馬」の保全活動

希少野生動植物種「ツシマウラボシシジミ」という対馬固有亜種のチョウの保護に取り組んでいる。幼虫の食草である「ケヤブハギ」「又スビトハギ」「フジカンゾウ」を学校敷地内で種から栽培し、生長した計100株を対馬市峰町にある国有林の保護区へ植栽した。また、対馬にのみ自生していた「黄金オニユリ」の栽培に挑戦した。さらに、地元企業と海岸清掃を実施した。

